

オリイレボラ *Scalptia scalariformis* (Lamarck)

【選定理由】

本種は内湾から湾口部にかけての潮下帯砂泥底にすむ。県内では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、本種も知多湾、三河湾湾口部、伊勢湾知多半島沖では生貝が採集されていなかった (中山, 1980; 木村, 1996; 木村, 2000)。2006, 2007 年に知多半島先端部の数地点でドレッジ調査の結果、少数の生貝が採集された。その後、2008 年に名古屋港沖から生貝が採集された (右図; 木村, 2010)。

しかし、本種の生息範囲は狭く、個体数も少ないので、絶滅の可能性が高い種であると評価された。

【形態】

殻長約 25 mm の紡錘型の貝で、殻は厚く平滑。殻表には強い縦肋がある。蓋はない。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように、県内の潮下帯では、近年生貝が少数しか採集されない。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、インド洋、太平洋、国内では房総半島～九州西岸まで分布する (木村・福田, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような生息環境悪化のため、本種の生息場所、個体数ともに減少し、ほとんど生貝が採集されない。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

レッドデータブックなごや 2010 (木村, 2010) では、本種と正しく同定された名古屋港沖産生貝標本 (図下段) が図示されていたが、レッドデータブックなごや 2015 (木村 加筆 川瀬, 2015) では“千葉県房総半島”産とされるフトウネオリイレボラ *Scalptia crossei* (Semper) (本当にこの標本が日本産個体であれば日本新記録である) が図示されているので、訂正する。

【引用文献】

愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物. 222pp.

木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.

木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, (26): 18-20. 名古屋貝類談話会.

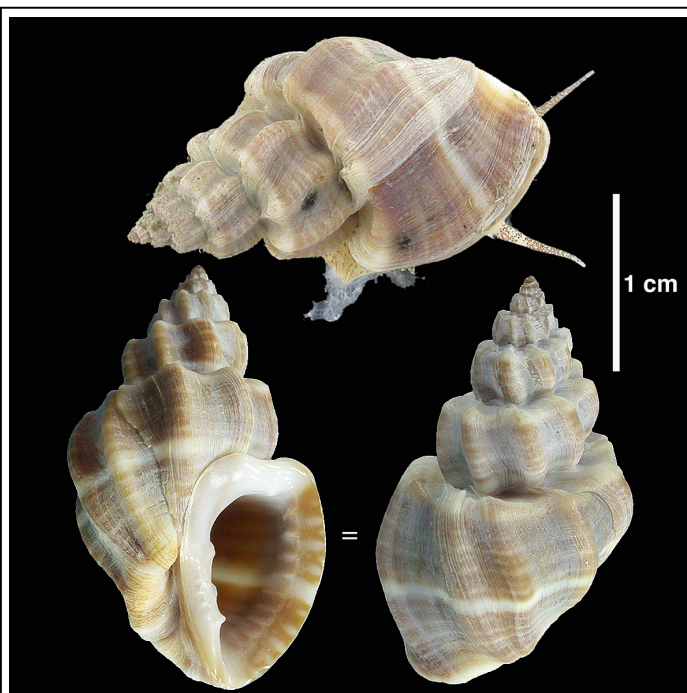
木村昭一, 2010. オリイレボラ, p. 205.in : レッドデータブックなごや 2010 (2004 年版補遺), 316pp. 名古屋市環境局.

木村昭一 加筆 川瀬基弘, 2015. オリイレボラ, p. 418. in : レッドデータブックなごや 2015 動物編, 504pp. 名古屋市環境局.

木村昭一・福田 宏, 2012. オリイレボラ, p. 74.in : 日本ペントス学会 (編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ペントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.

中山 清, 1980. 知多湾南部海域の貝類相. かきつばた, (6): 10-12. 名古屋貝類談話会.

(木村昭一)



名古屋市名古屋港沖(ドレッジ水深 6 m), 2008 年 10 月 10 日, 木村昭一採集